

救急集中治療科研修の概要

基本理念と特長

急性期病院として、地域の救急患者の診療を行うための知識・技術を習得し、十分量の経験を積む。救急医学は、突然発生した外因性または内因性疾患に対し、迅速かつ適切な診断および治療を行う医療活動である。

救急集中治療科研修の目標

1 一般目標

各種症候別の鑑別疾患を想定しながら確定診断に至るための診療を行い、各科専門医に引き継ぐ。重症な病態から common disease まで多岐にわたる初期診療を実施することができる。

2 行動目標

- 1) バイタルサインを迅速に把握し的確な身体診察を行うことができる。
- 2) 各種症候から鑑別疾患を想起できる。
- 3) 外傷初期診療を理解している。
- 4) 一次救命処置(BLS)の指導ができ、二次救命処置(ACLS)を実施できる。
- 5) 重症と緊急度の判断ができ、適切な呼吸管理と循環管理を実施できる。
- 6) 各科専門医に適切なコンサルト・引継ぎできる。
- 7) 患者背景を把握し、全人的な医療を遂行できる。
- 8) チーム医療の一員として、自分の役割を理解し、各コメディカルと良好なコミュニケーションがとれる。

3 経験目標

- 1) 内因性疾患の救急対応
- 2) 外傷の初期対応
- 3) 心肺停止、呼吸不全、循環不全、意識障害の初期対応
- 4) 中毒病態の対応
- 5) 各種画像診断・生理学診断（ECG、腹部エコー、心臓エコー、CT）

4 経験すべき症状・病態・疾患

- 1) 内科研修の概要②内科研修 3 経験目標 6).A) 症状・病態に記載される項目に準じる。
- 2) 外傷全般
- 3) 院内外で発生した心肺停止、呼吸不全、意識障害、急性中毒

救急集中治療科研修プログラム

1 年目研修のうち、2 か月間が救急集中治療科の研修となる。